

ピーポーマン ―Z 級メタルヒーロー参上！―

登場人物

佐藤恒一（40）

妻・美咲を亡くし、ピーポーマンを憎む。特殊装置によってピーポーマン 2 となる。

佐藤美咲（40）

佐藤の妻。病に侵され、最期を自宅で過ごす。

大野甲介（24）

神崎の元助手。息子を救いたいという願いからピーポーマンとなる。

神崎（55）

特殊装甲開発計画の元研究者。血を求める願いからピーポーマン 3 となる。

双子の兄

元研究員。特殊装置によってデンジャーマンとなる。

双子の弟

元研究員。特殊装置によってポイズンマンとなる。

EXT. アパート ― 夜

雨。

大通りを、無数の車が走り抜けていく。

濡れた路面に、ヘッドライトとテールランプの光が滲んでいる。

EXT. 同・外廊下 ― 夜

男が歩いている。

足元には、雨に濡れた床。

――ツルッ！

男、足を滑らせる。

身体が傾き、床に手をつく。

男

「っ！」

肘を擦る。

男、肘をさする。

INT. 男の部屋 ― 夜

暗い部屋。

パソコンのモニターだけが、男の顔を青白く照らしている。

仕事を終え、男がベッドに横になる。

肘の擦り傷を、もう一度さする。

その時――

遠くから、救急車のサイレン。

ピーポー…。

男、目を開ける。

サイレンが近づいてくる。

ピーポー…パーポー…。

やがて、カーテン越しに赤い光が差し込む。

部屋の壁が、赤く染まる。

サイレンはアパートの前まで来ている。

しかし、止まらない。

音が、さらに近づいてくる。

アパートの階段を上ってくる。

一階。

二階。

男

え？

三階――。

赤い光が、廊下の壁を這うように近づいてくる。

サイレンが、男の部屋の前で止まる。

男、玄関を見る。

ドアノブが回る。

ガチャッ、ガチャッ！

男

…え？

次の瞬間――

バキィッ！

玄関のドアがこじ開けられる。

男、飛び上がる。

ドアの向こうから、メタルヒーロー（以下ピーポーマンと表記）が姿を現す。

白銀の装甲。

赤く明滅する発光部。

救急車を思わせる意匠を全身にまとった、異形の戦士。

男は、ただ立ち尽くし、その姿を見つめる。

※ピーポーマン・イメージ映像



INT. SNS 画面 — 数日後

無数の投稿が、画面を流れていく。

《謎のヒーロー、目撃情報多数》

《突然部屋に来て拉致られた》

《救急戦隊ピーポーマン w》

《ピーポーマンにヘルニア治してもろた w》

《不治の病治したってマジ？》

投稿についた「いいね」やリポストの数が、次々と増えていく。

EXT. 病院 — 昼

白い病棟。

その上空を、雲がゆっくりと流れている。

INT. 病院・病室 — 昼

窓から、淡い光が差し込んでいる。

ベッドに、佐藤美咲（40）が横たわっている。

弱々しく痩せ細った身体。

その傍らに、夫の佐藤恒一（40）が座っている。

美咲の手を握り、じっと見つめている。

FLASHBACK:

INT. 病院・診察室

恒一と医師が向かい合っている。

医師は手元の資料に目を落としたまま、言葉を選ぶ。

医師

…もう、長くはないでしょう

BACK TO SCENE:

INT. 病院・病室 ー 昼

恒一、美咲を見る。

美咲は目を閉じている。

恒一は握った手に、わずかに力を込める。

INT. 病院・廊下 ― 昼

病室の扉が閉まる。

廊下の先で、医師と看護師が話している。

看護師

先生はどう思われます？ ピーポーマン

医師、少し意外そうに看護師を見る。

看護師

不治の病すら治せると聞きましたけど…

医師、鼻で笑う。

医師

バカバカしい話だ

一拍。

医師

そんな存在があるなら、医者はいらないじゃないか

看護師は何も答えない。

廊下の窓から、遠くの街が見える。

そのどこかに――

噂のヒーローがいる。

INT. 佐藤のマンション・リビング ― 夜

暗い部屋。

パソコンのモニターだけが、佐藤の顔を青白く照らしている。

佐藤、無心で画面をスクロールしている。

SNS や掲示板。

動画サイトのコメント欄。

画面には、ピーポーマンに関する書き込みが次々と流れていく。

《ガチでピーポーマンに病気治してもらった》

《拉致→手術の流れで確定》

《あいつは本物のヒーローだ》

《昨日、駅前の本屋にいた》

佐藤、画面を見つめる。

キーボードを叩く。

《妻がガンだ。どうやったらピーポーマンに会えるか？》

投稿。

しばらくして、一件の返信がつく。

《ピーポーマンは病院にはやってこない》

佐藤、目を止める。

続けて、返信が表示される。

《なぜならその本質は救急車両だからだ》

佐藤

...

モニターの光だけが、顔を照らしている。

INT. 病院・病室 — 数日後・昼

佐藤、美咲の荷物をまとめている。

衣類を鞆に詰める。

薬。

化粧品。

小さな私物。

ひとつひとつ、丁寧にしまっていく。

INT. 病院・入口 ― 昼

自動ドアが開く。

佐藤と美咲が、外へ出てくる。

入口には、看護師たち。

美咲、振り返る。

深く頭を下げる。

美咲

お世話になりました

EXT. 佐藤のマンション前 ― 昼

タクシーが停まる。

佐藤が先に降りる。

続いて美咲。

佐藤、美咲の身体を支える。

二人、ゆっくりとマンションへ向かう。

INT. 佐藤のマンション ― 昼

美咲、ゆっくりと部屋を見渡す。

見慣れた家具。

変わらない部屋。

美咲

…なつかしい

佐藤、妻を見つめる。

美咲、少し間を置いて。

美咲

…お腹へったな

佐藤、微笑む。

佐藤

お粥か、茶碗蒸しでも作ろう

美咲、首を横に振る。

美咲

ラーメン、食べたい

佐藤

え

美咲

チャーシューが、うんとたくさんのってるやつ

無邪気な笑顔。

佐藤、その笑顔を見る。

一瞬――

顔が歪み、言葉に詰まる。

だが、すぐに笑顔に戻る。

佐藤

…よし。出前取るか

INT. 佐藤のマンション・寝室 ― 夜

暗闇。

ベッドに、佐藤と美咲が並んで眠っている。

静かな部屋。

遠くから、サイレンの音。

ピーポー…

佐藤、目を開ける。

じっと耳を澄ます。

サイレンが近づいてくる。

ピーポー…パーポー…

佐藤、ゆっくりと身体を起こす。

暗闇の中、窓のほうを見る。

救急車が走っている。

マンションの前を通り過ぎていく。

サイレンの音が、遠ざかる。

佐藤、しばらく窓を見つめている。

隣で、美咲が目を覚ます。

美咲

…どうしたの？

佐藤、美咲を見る。

佐藤

いや、なんでもないよ

佐藤、再び横になる。

美咲も目を閉じる。

暗闇。

遠ざかっていくサイレンの音が、微かに響いている。

INT. 佐藤のマンション・リビング ― 数日後・夜

テーブルの上。

開いたままのノートパソコン。

佐藤、椅子に座ったまま眠り込んでいる。

疲労が、そのまま身体に残っている。

その時――

遠くから、サイレンの音。

ピーポー…

佐藤、目を開ける。

サイレンが近づいてくる。

ピーポー…パーポー…

やがて、マンションの前まで来る。

音が、さらに近づいてくる。

階段を上ってくる。

佐藤、ハッとする。

EXT. 佐藤のマンション・外廊下 ― 夜

佐藤、部屋を飛び出す。

階下から、サイレンの音。

猛烈な赤い光が、階段を駆け上がってくる。

続いて、物音。

争う声。

男の声

なんだあんたは！

佐藤、階段を駆け下りる。

夢中で、階段を降りていく。

視界の先――

パジャマ姿の男。

その男を背負い、走り去っていくピーポーマンの後ろ姿。

男

離せ！

佐藤

ま、待ってくれ！

佐藤、ピーポーマンを必死に追う。

EXT. 佐藤のマンション・エントランス ― 夜

佐藤、息を切らして外へ飛び出す。

だが――

ピーポーマンは、すでに遠くへ走り去っている。

赤い光だけが、夜の街に滲んでいる。

佐藤

...

INT. 佐藤のマンション・エレベーター ― 翌朝

佐藤、スーツ姿。

一人、エレベーターに乗っている。

扉が開く。

昨日の男が乗り込んでくる。

男、軽く頭を下げる。

男

おはようございます

佐藤

…おはようございます

扉が閉まる。

エレベーターが動き出す。

しばしの沈黙。

男

昨日、うちにも来ましたよ。噂のヒーローが

佐藤、男を見る。

男

高熱で寝込んでたんですが――

男、嬉しそうに笑う。

男

すっかり、このとおりです

男、元気よく身体を伸ばしてみせる。

佐藤、男を見つめる。

その目が――鋭くなる。

佐藤

…熱ですか？ ただの

佐藤、おそろしく冷たい声。

男、笑顔を止める。

エレベーターの到着音。

扉が開く。

男、気まずそうに、その場を去っていく。

佐藤、無言で見送る。

INT. 佐藤のマンション・寝室 — 数日後・夜

ベッドの上。

美咲が苦しんでいる。

佐藤、傍らで看病している。

額に手を当てる。

佐藤、電話を手にする。

佐藤

救急車をお願いします！

電話を切る。

美咲を見る。

佐藤

待ってろ。すぐ来るからな

美咲、弱々しく首を振る。

美咲

…あなた

佐藤、美咲の手を握る。

美咲

ごめんね

佐藤、強く手を握り返す。

佐藤

ピーポーマン…！

声が震える。

佐藤

頼む…！

妻の手を握りしめる。

佐藤

美咲を助けてくれ！

佐藤、床にうずくまる。

佐藤

俺の命と引き換えでいい！

両手を合わせる。

佐藤

このとおりだ…

額を床につける。

佐藤

このとおりだから…

静寂。

やがて――

遠くから、サイレン。

ピーポー…。

佐藤、顔を上げる。

サイレンが近づいてくる。

ピーポー…パーポー…。

佐藤、息を呑む。

音が、マンションの前まで来る。

そして――

サイレンが止む。

佐藤、絶望の表情。

よろよろと立ち上がる。

カーテンを開ける。

窓の下。

佐藤が呼んだ救急車が停まっている。

赤い光が、夜の部屋を染めている。

救急隊員が、タンカを手にマンションへ入っていく。

佐藤、窓越しにそれを見つめ、力なく天を仰ぐ。

暗転。

INT. 葬儀場 — 1週間後・昼

祭壇。

中央に、妻の遺影。

その前に、棺が置かれている。

喪主の佐藤、憔悴しきった顔で立っている。

訪問客が、ひとりずつ線香をあげていく。

INT. 佐藤のマンション・リビング — 夜

暗い部屋。

パソコンの画面だけが、佐藤の顔を照らしている。

画面には、SNS の投稿欄。

佐藤、キーボードを叩く。

《妻を見殺しにしたピーポーマンが憎い》

続けて打ち込む。

《ピーポーマンが憎い憎い憎い》

さらに――

《憎い憎い憎い憎い》

佐藤、狂ったようにキーボードを叩く。

やがて、パソコンの画面を拳で殴る。

一度。

二度。

何度も。

拳から、血がぽたぽたと落ちる。

室内に、佐藤の荒い息が響き渡る。

直後――

サイレン。

佐藤、顔を上げる。

サイレンが近づいてくる。

佐藤、鬼のような形相になる。

佐藤

こいよ！

さらに近づくサイレン。

佐藤

ピーポーマン、こい！

佐藤、立ち上がる。

佐藤、キッチンへ向かう。

血に染まった拳で包丁を掴み取る。

サイレンがマンションの前までくる。

階段を上ってくる。

一階。

二階。

三階――。

赤い光が、廊下を染めていく。

サイレンが、部屋の前で止まる。

ドアが――

バキィッ！

こじ開けられる。

暗闇に、赤い光が差し込む。

ドアの向こうから――

ピーポーマン。

佐藤、包丁を握りしめたまま睨みつける。

佐藤

今更何をしにきた？

ピーポーマン

...

佐藤

なぜ、助けるべき人間を助けない？

怒りで声を震わせる。

佐藤

なぜだ！　なぜ妻を助けてくれなかったんだ！

ピーポーマン、静かに佐藤を見る。

ピーポーマン

…俺は別にヒーローじゃない

一拍。

ピーポーマン

誰を助けるかは、俺次第だ

佐藤

ふざけるなあ！

佐藤、包丁を手に飛びかかる。

——ピーポーマン、迎え撃つ。

ピーポーマン

ピーポーパンチ！

強烈な一撃。

佐藤、吹き飛ばされる。

床を転がる。

佐藤、立ち上がろうとする。

ピーポーマン

ピーポーフラッシュ！

発光部から、エネルギー弾が放たれる。

佐藤、まともに食らう。

その場に倒れる。

ピーポーマン、倒れた佐藤を見下ろす。

佐藤

…殺せ

ピーポーマン

…

佐藤

…殺してくれ

佐藤、意識が途切れる。

EXT. 空き地 — 翌朝

一台の担架。

担架の上に、佐藤が横たわっている。

ゆっくりと目を開ける。

視界いっぱい、青空。

佐藤、身体を起こす。

傷だらけだった身体が――

何事もなかったように治っている。

佐藤、自分の拳を見る。

血も傷もない。

佐藤、きれいな拳を見て、

佐藤

うわわああああー！！！！

絶叫。

INT. テレビ画面

ニュース映像。

怪我人を背負って走り去るピーポーマンの姿。

テロップ。

《今話題のピーポーマン》

レポーター

ピーポーマンに助けられた人から、感謝の声があがっています

街頭インタビュー。

腹の出た男がカメラに映っている。

男

痛風が治ったぜ！　ありがとう、ピーポーマン！

再び、レポーター。

レポーター

一方で、助けるべき人間を助けていないという批判的な声もあがっています

別の街頭インタビュー。

女

ピーポーマンは悪魔だ！　どうしてもいい人間ばかりを助けている

画面が切り替わる。

ピーポーマンの写真。

レポーター

彼は神か、それとも悪魔か？ ピーポーマンの目的はなんなのか？

INT. ピーポーマンの部屋 ― 昼

ボロアパート。

散らかり放題の室内。

脱ぎっぱなしの服。

床に転がるビールの空き缶。

その中央で――

ピーポーマン、寝そべってテレビを見ている。

手には、煎餅。

ぼり。

ぼり。

テレビでは、なおもピーポーマンについて報じている。

ピーポーマン、テレビを見ながら――

煎餅を食べ続けている。

EXT. 田舎道 ― 2週間後・昼

山間の一本道。

佐藤、一人歩いている。

舗装の剥がれた道。

周囲に、人の気配はない。

佐藤、手にした住所を確かめる。

EXT. 山奥・古びた屋敷 ― 昼

木々に囲まれた、古びた屋敷。

人里から離れ、ぽつんと佇んでいる。

佐藤、屋敷の前で足を止める。

表札。

そこに、かつて研究者として知られた男の名。

佐藤、表札を見る。

一度、息を整える。

戸を叩く。

コン、コン。

返事はない。

佐藤、もう一度。

コン、コン、コン。

やはり、返事はない。

佐藤、さらに強く叩く。

ドンドンドン！

しばらくして――

ガラッ。

戸が開く。

神崎（55）が顔を出す。

神崎、佐藤を見る。

佐藤

…ピーポーマンのことで、聞きたいことがある

INT. 神崎の屋敷・居間 ― 昼

古いテレビがついている。

画面には、ピーポーマンの姿。

レポーター

――ピーポーマンをめぐって、いまでも様々な議論が――

神崎、リモコンを手にする。

テレビを消す。

静寂。

佐藤

あんたなんだろ？

神崎、佐藤を見る。

佐藤

ピーポーマンの生みの親は…

神崎

君は、誰だね？

佐藤、何も答えない。

代わりに、一枚の古い新聞記事を机の上に置く。

記事の見出し。

《大学研究チーム、特殊装甲開発へ》

神崎、記事に目を落とす。

表情が変わる。

佐藤

ピーポーマンを追っていたら、こんな記事を見つけた

神崎

...

佐藤

15 年前の記事だ

神崎

...

佐藤

この計画の責任者に、あんたの名前がある

神崎、黙ったまま新聞を見つめている。

佐藤

それだけじゃない

佐藤、神崎を見つめる。

佐藤

一ヶ月前――ピーポーマンが世間に現れた。それと同時に、あんたは突如大学
を去り、世間から姿を消した

沈黙。

佐藤

偶然か？

神崎、答えない。

佐藤、神崎を睨む。

佐藤

答えろ

神崎、ゆっくりと背を向ける。

棚の上に置かれた、一枚の写真。

神崎、写真を手に取る。

佐藤の前に差し出す。

写真には、白衣を着た二人の男。

神崎と、その隣に、もう一人の若い男。

佐藤、写真を見る。

神崎、写真を見つめる。

長い沈黙。

神崎

ピーポーマンは――

言葉が止まる。

神崎、写真の中の男を見る。

神崎

…いや、大野甲介は――

INT. 研究室 — 15 年前

白衣姿の研究員たち。

神崎と大野（24）。

そのほかに、よく似た顔立ちの双子の男が二人いる。

四人は、巨大な装置を囲んでいる。

神崎（VO）

大野も私と同じ研究者で、私の助手だった

研究室の奥。

複雑な機械が組み上がっていく。

神崎（VO）

私たちは、特殊装甲開発計画――

金属製の装甲が、研究員たちの手によって組み立てられていく。

神崎 (VO)

一言でいえば、メタルヒーローを生み出す研究をしていた

実験。

装置の前に立つ大野。

電極が接続される。

機械が唸り、装置の内部に光が走る。

研究員たちがモニターを見つめる。

神崎 (VO)

我々は、人間の内部にあるエネルギーに着目した

神崎がモニターに映し出された数値を見る。

神崎 (VO)

願いだ

大野が装置の前で目を閉じる。

神崎（VO）

願いが力となり――

装置が激しく発光する。

神崎（VO）

人間を、メタルヒーローへと姿を変えるはずだと

――研究の日々。

同じ実験を繰り返す神崎たち。

机の上に積み重なる研究資料。

装置の部品が、少しずつ形になっていく。

――さらに年月が過ぎる。

ほぼ完成した特殊装甲。

神崎たちが最後の調整を続けている。

そこへ――

一枚の書類が届けられる。

神崎が封筒を開く。

読む。

表情が固まる。

書類には――

《研究計画・中止》

神崎

...

大野が神崎の手元を覗き込む。

双子も書類を見る。

研究室に、重い沈黙が落ちる。

神崎 (VO)

完成を目前にして、国から計画中止の通達が出た

研究室の隅。

完成した装置は、シートをかけられる。

誰も触れることなく、眠りにつく。

INT. 神崎の屋敷・居間 ― 現在

神崎は、写真を見つめたまま話し始める。

神崎

その後、チームは解散した

写真の中の大野。

神崎

マシンの存在も、いつしか忘れられていった

神崎が写真を伏せる。

神崎

…そして、ことが起きたのは一ヶ月前

CUT TO:

INT. 研究室 — 一ヶ月前

白衣姿の神崎が、一人で実験をしている。

スポイトで容器に液体を垂らし、モニターに表示された数値を確認する。

そこへ――

ドアが開く。

大野が入ってくる。

ただならぬ様子に、神崎が振り返る。

大野

教授！

神崎

大野くん…？

数年ぶりの再会。

しかし、感慨に浸る間もなく――

大野

…あの装置を、自分に使わせてください！

神崎

ちょっと、待ちたまえ。一体どうしたというのだ？

大野は答えず、血相を変えたまま神崎に詰め寄る。

CUT TO:

EXT. 学校 ― 昼

燃えさかる校舎。

騒然とする人々。

消防車と救急車が何台も停まっている。

負傷した生徒たちが、次々と運び出されていく。

また一台、救急車が到着する。

次々と負傷者が救急車で病院に運ばれていく。

神崎 (V.O.)

彼の息子の通う学校で、火災事故が起きた。

救急隊員が負傷者を運ぶ。

神崎 (V.O.)

だが、救急車の数が足りなかった

CUT TO:

INT. 研究室 — 昼

大野と神崎が、かつて封印された装置を見つめている。

神崎

大野くん、この装置は未完のまま――

大野

いちかばちかです！

神崎は大野を見る。

その目には、息子を救いたいという強い願いが宿っている。

神崎は、大野の覚悟を悟る。

もはや、止めることはできなかった。

大野が装置の前に立つ。

神崎が装置を起動する。

機械が唸りを上げる。

激しい光が、大野の身体を包む。

金属が、次々と大野の身体を覆っていく。

やがて――

光の中から、一体のメタルヒーローが姿を現す。

ピーポーマン誕生。

CUT TO:

INT. 病院・病室 ― 昼

ベッドに横たわる大野の息子。

静かに閉じられた目。

神崎 (V.O.)

息子を助けたい――

ピーポーマンの姿を見つめる神崎。

神崎 (V.O.)

その願いによって、大野はメタルヒーローになった

一拍。

ピーポーマンが、病室の前に立っている。

その向こうには、もう動かない息子。

神崎 (VO)

だが、時すでに遅く――

ピーポーマンの拳が、ゆっくり握られる。

神崎 (VO)

息子は、助からなかった

――回想終わり。

INT. 神崎の屋敷・居間 ― 現在

佐藤は黙って聞いている。

神崎

それからのことは、テレビで流れているとおりだ

佐藤

...

神崎

彼はいま、心を無くしたまま、鋼鉄の中を彷徨っている

佐藤が神崎を見る。

佐藤

そのマシンは、どこにある？

神崎

知って、どうする気だ

佐藤、神崎を真っ直ぐ見据える。

佐藤

俺を改造しろ

神崎

...

佐藤

ピーポーマンを捕まえたいという強い願いが、俺にはある

神崎、黙り込む。

目を伏せ、しばらく考え込む。

神崎

...だめだ

佐藤

断るなら力づくだぞ

神崎

ピーポーマンは…いや、大野くんはまだ

佐藤

奴はもう人間じゃない！

神崎は黙って佐藤を見る。

やがて――

神崎

…改造したら、もう二度と元の体には戻れんぞ

佐藤

それでいい

神崎は目を伏せる。

長い沈黙。

神崎

…わかった

神崎が立ち上がる。

神崎

彼を止めてくれ

INT. 研究室 ― 夜

神崎と佐藤が入ってくる。

部屋の中央。

大きな装置が、カバーをかけられたまま佇んでいる。

神崎がカバーを外す。

姿を現す、変身装置。

佐藤は無言で装置を見つめる。

神崎

…本当にいいんだな

佐藤は答えない。

装置の中へ入っていく。

神崎が扉を閉める。

INT. 装置内部

暗闇。

佐藤が目を閉じる。

佐藤

…捕まえる

握りしめる拳。

佐藤

捕まえる…

さらに強く目を閉じる。

佐藤

捕まえる…

――フラッシュ。

苦しむ美咲。

――フラッシュ。

ピーポーマンに吹き飛ばされる佐藤。

――フラッシュ。

妻の遺影。

――フラッシュ。

血まみれの拳。

佐藤

…ピーポーマンを！

装置が激しく振動する。

白い光が、佐藤を包む。

CUT TO:

INT. 研究室 — 1 時間後

装置の扉が開く。

煙の向こうから、佐藤が歩み出る。

全身を覆う、パトカーをモチーフにした金属製の装甲。

赤色灯。

白銀のボディ。

新たなメタルヒーロー——

ピーポーマン 2。



佐藤（以下ピーポーマン 2 と表記）は、自分の身体を見つめる。

腕を握る。

ゆっくりと拳を開く。

神崎は、その姿を見上げる。

神崎

…ピーポーマン…二号

ピーポーマン 2

名前などどうでもいい

ピーポーマン 2 が神崎を見る。

ピーポーマン 2

それより――

次の瞬間。

ザシュッ！

ピーポーマン 2 の剣が、神崎の身体を切り裂く。

神崎

なにをする！

神崎が血を流して倒れる。

ピーポーマン 2

心配するな。殺しはしない

ピーポーマン 2 が神崎を見下ろす。

ピーポーマン 2

ピーポーマンをおびき寄せるための餌だ

神崎

き、貴様…！

そのとき――

遠くから、サイレン。

ピーポー…。

神崎が顔を上げる。

サイレンが、少しずつ近づいてくる。

ピーポーマン 2

…さっそく来たか

INT. 研究室 ― 夜

ドアが開く。

ピーポーマンが入ってくる。

ピーポーマン 2 と、向かい合う。

一瞬の静寂。

次の瞬間――

激突。

ピーポーマンが拳を振り抜く。

ピーポーマン

ピーポーパンチ！

ピーポーマン 2、身をかかわす。

ピーポーマンの拳が壁を砕く。

続けざまに、赤い光が集まる。

ピーポーマン

ピーポーフラッシュ！

エネルギー弾が放たれる。

ピーポーマン 2、両腕で受け止める。

そのまま――

弾き返す。

エネルギー弾がピーポーマンへと向かう。

そして、爆発。

ピーポーマンが吹き飛ぶ。

が、すぐに立ち上がる。

ピーポーマン 2、間髪入れずに飛び込む。

拳を叩き込む。

ピーポーマン 2

ワンピーポー！

ドガッ！

ピーポーマン 2

ツーピーポー！

ドガッ！

ピーポーマン 2

スリーピーポー！

ドガァッ！

三連撃。

すべてピーポーマンに命中する。

ピーポーマン、倒れる。

ピーポーマン 2

お前の本質は守りだ

一歩、近づく。

ピーポーマン 2

攻撃に特化した俺には、勝てない

ピーポーマンは立ち上がろうとする。

だが、身体が動かない。

ピーポーマン 2 が見下ろす。

ピーポーマン 2

ピーポーマン

ピーポーマンは顔を上げる。

ピーポーマン 2

お前は、俺に似ている

ピーポーマン

...

ピーポーマン 2

悲しみが、二人のメタルヒーローを生んだ

ピーポーマン 2 が剣を抜く。

ピーポーマン 2

さらば。地獄で会おう

剣を振り上げる。

そして――

振り下ろす。

ガキーン！

剣が弾き飛ばされる。

ピーポーマン 2

？！

声

いや――

ピーポーマン 2 が振り返る。

声

たった今、三人目が生まれた

研究室の奥。

血まみれの神崎が立っている。

いや――

その姿は、献血車をモチーフにしたメタルヒーロー。

銀と赤のカラーリング。

胸には大きく「献血」の文字。

手には、巨大な注射針を思わせる武器。

ピーポーマン 3。



CUT TO:

INT. 研究室・装置内部 — 少し前

傷を負い、血を流す神崎。

床に血が滴る。

神崎は、ふらつきながら装置へ入る。

扉が閉じる。

神崎

…血が欲しい

装置が反応する。

激しい光。

CUT BACK TO:

INT. 研究室 ― 夜

神崎（以下ピーポーマン 3 と表記）が歩み出る。

ピーポーマン 3

私は、ピーポーマン三号だ

三人が対峙する。

――激しいバトル。

ピーポーマン 3 が突進する。

ピーポーマン 3

ピーポーアタック！

ドガァッ！

ピーポーマン 2 が吹き飛ぶ。

しかし、すぐに立ち上がり、反撃。

ピーポーマン 2

ワンピーポー！

拳。

ピーポーマン 2

ツーピーポー！

拳。

ピーポーマン 3、両腕でガードする。

そして反撃。

ピーポーマン 3

ピーポーアタック！

強烈な一撃。

ピーポーマン 2 が吹き飛ぶ。

その隙に――

ピーポーマンが走り出す。

ピーポーマン 2

…！

ピーポーマン 2 が気づく。

ピーポーマン 2

ピーポーマン、逃さんぞ！

ピーポーマン 2、後を追って研究室を飛び出す。

——残されたピーポーマン 3。

静まり返った研究室。

ピーポーマン 3 は、ゆっくりと振り返る。

そこには、特殊装甲の変身装置。

ピーポーマン 3 が近づく。

拳を握る。

そして——

装置を殴りつける。

ガシャァン！

装置が大きく破損する。

ピーポーマン 3

…私は、間違っていたんだ

壊れた装置を見つめる。

ピーポーマン 3

ならば、いっその手で——

顔を上げる。

INT. ニュース映像 ― 数日後

街角。

レポーターがカメラに向かって話している。

レポーター

ピーポーマンが現れて一ヶ月。新たなメタルヒーローが現れ、不可解な行動を繰り返しています

映像が切り替わる。

街中をさまようピーポーマン 2。

獲物を探すように、辺りを見回しながら歩いている。

INT. 悪の組織・アジト ― 夜

薄暗い室内。

テレビに、ピーポーマンのニュースが流れている。

二人のメタルヒーローが、その映像を見ている。

危険物積載車両をモチーフにした兄——デンジャーマン。

胸には「危」のマーク。

その隣には、毒物運搬車両をモチーフにした弟——ポイズンマン。

胸には「毒」のマーク。



デンジャーマン

やるぞ

ポイズンマン

おう

二体、歩き出す。

EXT. 街 — 数日後・昼

ピーポーマン 3 が歩いている。

子供が、その姿を見つける。

子供

ピーポーマン！

ピーポーマン 3、立ち止まる。

子供

病気の友達を治して！

ピーポーマン 3、子供を見つめる。

ピーポーマン 3 (V.O.)

私の本質は献血車両。病気を治す力を持っていない

ピーポーマン 3、何もできずに歩き出す。

そこへ、別の通行人が駆けてくる。

通行人

ピーポーマン！ 万引きだ！

通行人が指差す先。

万引き犯が逃げていく。

ピーポーマン 3、その姿を見る。

だが、追わない。

ピーポーマン 3 (V.O.)

私には、犯人を捕まえるだけのスピードもない

通行人たちが、ピーポーマン 3 の周囲に集まってくる。

通行人

ピーポーマン、なんとかしてくれ！

別の通行人

ほかのピーポーマンはどこにいるんだ？

さらに別の通行人

誰かピーポーマンを呼んでくれ！

ピーポーマン 3、黙って人々を見つめる。

病気を治してほしい子供。

万引き犯を捕まえてほしい通行人。

助けを求める人々。

ピーポーマン 3 (V.O.)

…みんなが、ピーポーマンを求めている

ピーポーマン 3、静かにその場を離れていく。

EXT. 渋谷 ― 夕

ピーポーマン 3、黄昏ながら歩いている。

遠くから、人々の悲鳴。

街が、にわかに騒がしくなる。

ピーポーマン 3、異変に気づき、足を止める。

EXT. 渋谷スクランブル交差点 ― タ

デンジャーマンとポイズンマンが、交差点の中央で暴れている。

逃げまどう大勢の通行人。

デンジャーマンが、ビルに向かって爆発物を投げつける。

爆発。

悲鳴。

ポイズンマンが毒ガスを放つ。

白いガスが、街を覆っていく。

次々と地面に倒れ、苦しむ通行人たち。

そこへ――

ピーポーマン 3 が駆けつける。

惨状を目の当たりにし、立ち尽くす。

やがて視線が、デンジャーマンたちへ向く。

ピーポーマン 3

なぜ、メタルヒーローが…？！

二人を睨む。

ピーポーマン 3

お前たち、何者だ？

デンジーマン

名乗るほどの者じゃない

その声に、ピーポーマン 3 が反応する。

ピーポーマン 3

…その声

ピーポーマン 3、二人を見つめる。

FLASHBACK:

INT. 研究室 — 15 年前

神崎が、研究データを確認している。

その傍らに、若き日の双子の研究者。

神崎

君、今のデータ取って

双子の兄

はい

BACK TO SCENE:

ピーポーマン 3

まさか…君たちか？

デンジャーマン

…教授。あんたか

変わり果てた姿を互いに見つめ合う。

ピーポーマン 3

しかし、いったいどうやって？

ポイズンマン

簡単な話さ。なあ兄貴

デンジャーマンとポイズンマン、不敵に笑う。

デンジャーマン

ピーポーマンのニュースで、あのマシンが完成していると知った

ポイズンマン

そこで研究所に忍び込み、こっそり使わせてもらったまでのことさ

デンジャーマン、ピーポーマン 3 を見据える。

デンジャーマン

マシンの中で、俺たちはこう願った

ピーポーマン 3

...

ポイズンマン

俺たちの研究を止めたバカな国を――

デンジャーマン

ぎゃふんと言わせてやりたいってな

デンジャーマン、爆弾を建物へ投げる。

建物が爆発する。

ピーポーマン 3

バカな真似はよせ！

デンジャーマン、構える。

デンジャーマン

教授。邪魔するなら――

ポイズンマンも構える。

ポイズンマン

まず、あんたからいくぜ！

二人、ピーポーマン 3 に飛びかかる。

デンジャーマンが爆弾を投げつける。

デンジャーマン

デンジャーボム！

爆発。

ピーポーマン 3、煙の中から飛び出す。

その背後から、ポイズンマンが襲いかかる。

ポイズンマン

ポイズンガス！

銃器から毒ガスが噴き出す。

ピーポーマン 3、咄嗟に腕で顔を覆う。

しかし、毒ガスが装甲の隙間から入り込む。

ピーポーマン 3、身体が痺れる。

ポイズンマン

兄貴！ 今だ！

デンジャーマン、突っ込む。

デンジャーマン

デンジャーパンチ！

拳がピーポーマン 3 の胸を直撃する。

ピーポーマン 3、吹き飛ばされる。

地面を転がる。

デンジャーマン、さらに爆弾を投げる。

デンジャーマン

デンジャーボム！

爆発。

ピーポーマン 3、瓦礫の中から立ち上がる。

装甲の一部が焼け焦げている。

デンジャーマン

どうした、教授

ポイズンマン

その程度かよ

二人が同時に襲いかかる。

ピーポーマン 3、二人の攻撃をかわす。

デンジャーマンの拳を受け流し、ポイズンマンを蹴り飛ばす。

だが、デンジャーマンが背後から爆弾を投げる。

デンジャーマン

デンジャーボム！

ピーポーマン 3、振り返る。

爆発。

ピーポーマン 3、再び吹き飛ばされる。

デンジャーマン、近づく。

デンジャーマン

とどめだ

デンジャーマン、構える。

デンジャーマン

デンジャーパンチ！

ピーポーマン 3、拳をかわす。

そしてデンジャーマンの腹部に向かって――

ピーポーマン 3

ピーポーアタック！

強烈な一撃。

デンジャーマン、吹き飛ばされる。

ポイズンマン

兄貴！

デンジャーマン、倒れたまま動かない。

ポイズンマンがピーポーマン 3 に襲いかかる。

ポイズンマン

ポイズンパンチ！

拳をかわす。

反撃。

ピーポーマン 3

ピーポーアタック！

ポイズンマン、ガード。

両者、激しくぶつかり合う。

直後――

倒したはずのデンジャーマンが、再び襲いかかる。

ダメージが、完治している。

ピーポーマン 3、驚く。

デンジャーマン

デンジャーパンチ！

鋭いパンチが飛んでくる。

ピーポーマン 3、吹き飛ぶ。

二人、攻撃の手を緩めない。

デンジャーマンが爆弾を投げつける。

デンジャーマン

デンジャーボム！

爆発。

ピーポーマン 3、煙の中から飛び出す。

その背後に、ポイズンマン。

ピーポーマン 3

その手は覚えた！

ピーポーマン、振り向きざまに拳を放つ。

ピーポーマン 3

ピーポーアタック！

ポイズンマン、吹き飛ばされる。

地面にひれ伏す。

デンジャーマン

ポイズンマン！

ピーポーマン3とデンジャーマン、向かい合う。

タイマン勝負。

襲いかかるデンジャーマン。

そのとき――

ピーポーマン3、何かに気づく。

いつの間にか、ピーポーマンの姿がある。

ピーポーマン、倒れたポイズンマンの身体に手を当て、治療している。

ピーポーマン3

何をしてる！

ピーポーマンは答えない。

治療を続ける。

ピーポーマン 3

やめるんだ！ 大野くん！

そこへ――

今度はピーポーマン 2 が現れる。

ピーポーマン 2、ピーポーマンに襲いかかる。

ピーポーマン 2

ワンピーポー！

ピーポーマン、吹き飛ばされる。

ピーポーマン 2、連撃。

ピーポーマン 2

ツーピーポー！

ピーポーマン、地面に叩きつけられる。

ピーポーマン 3

ピーポーマン 2！ やめるんだ！

ピーポーマン 2

...

ピーポーマン 3

ピーポーマンがいなくなったら――

ピーポーマン 3、デンジャーマンと戦いながら周囲を見る。

苦しむ大勢の通行人。

救助に駆け回る人々。

圧倒的に足りない救助の手。

ピーポーマン 3

誰がこの人たちを助ける！

しかし、ピーポーマン 2 はその声を無視する。

その間に――

デンジャーマン

デンジャーボム！

デンジャーマンが爆弾を投げる。

爆発。

ピーポーマン 3、煙の中に消える。

ピーポーマン 2、倒れたピーポーマンを冷たく見下ろす。

ピーポーマン 2

さらば！ スリーピーポー！

渾身の拳を放つ。

が、ピーポーマン 3 が立ち上がり、その拳を止める。

ピーポーマン 2

邪魔をするな！

ピーポーマン 2、ピーポーマン 3 へ襲いかかる。

ピーポーマン 2

ワンピーポー！

ピーポーマン 3、攻撃をかわす。

その隙に、ピーポーマンが起き上がる。

ポイズンマンのもとへと駆け寄り、再び、治療を始める。

ポイズンマン、ゆっくりと起き上がる。

全快。

ピーポーマン 3

…埒が明かない

ピーポーマン 3、なおもピーポーマン 2 と激しくぶつけ合う。

そのとき――

デンジャーマン

決めるぞ！

ポイズンマン

おう！

二人、互いに向き合う。

デンジャーマンとポイズンマンの身体が発光する。

ピーポーマン 3

…？

光がさらに激しさを増す。

デンジャーマン、ポイズンマン

合体だ！

二体の身体が、ひとつになっていく。

やがて――

新たなメタルヒーロー（以下デッドマンと表記）が姿を現す。

白装束を思わせる、純白の装甲。

胸には、大きく「死」の文字。



デッドマン

我が名は、デッドマン

デッドマン、ピーポーマン2に襲いかかる。

デッドマン

デッドパンチ！

拳が、ピーポーマン2に直撃する。

ピーポーマン 2、一撃で吹き飛ばされる。

デッドマン、遠くのピーポーマンを見やる。

デッドマン、目からエネルギー光線を放つ。

デッドマン

デッドビーム！

ピーポーマン、吹き飛ばされる。

あっという間に、二人のピーポーマンが倒される。

デッドマン、一歩踏み出す。

デッドマン

最後はお前だ

デッドマン、ピーポーマン 3 へ猛然と突進。

ピーポーマン 3、身構える。

デッドマン

デッドパンチ！

強烈な拳。

ピーポーマン 3、腕で受け止める。

ズシン！

そのまま後方へ押し込まれる。

ピーポーマン 3、踏ん張る。

デッドマン、さらに拳を繰り出す。

ピーポーマン 3、身をひねってかわす。

デッドマンの拳が、背後の車を直撃。

車体が大きくへこむ。

ピーポーマン 3、反撃。

ピーポーマン 3

ピーポーアタック！

拳を叩き込む。

デッドマン、腕で防ぐ。

二人の拳が激突する。

デッドマン、後退。

ピーポーマン 3、間髪入れずに追い打ち。

パンチ。

パンチ。

デッドマン、すべてを受け止める。

デッドマン

そんなものか！

デッドマン、ピーポーマン 3 の胸ぐらをつかむ。

そのまま持ち上げる。

ピーポーマン 3

ぐっ…！

デッドマン、地面へ叩きつける。

ドン！

アスファルトが碎ける。

デッドマン

死ね！

デッドマン、拳を振り上げる。

ピーポーマン 3、転がってかわす。

拳が地面を直撃。

亀裂が走る。

めり込んだ拳が抜けない。

その隙に、ピーポーマン 3、立ち上がる。

デッドマン、強引に拳を抜く。

二人、再び向かい合う。

ピーポーマン 3、拳を握る。

デッドマンも拳を握る。

一瞬の静寂。

デッドマン

デッドパンチ！

ピーポーマン 3

ピーポーアタック！

二人、同時に突進。

拳と拳が激突する。

――次の瞬間。

デッドマンの身体が、大きく吹き飛ぶ。

瓦礫を巻き上げながら、地面を転がる。

そのまま――

地面に叩きつけられる。

ピーポーマン 3

正義は必ず勝つ

倒れたデッドマン、喘ぐように呟く。

デッドマン

…俺たちだけではない

ピーポーマン 3

何だと？

デッドマン

マシンを使ったのは……

デッドマン、苦しそうに顔を上げる。

デッドマン

まだ出てくるぞ…

一拍。

デッドマン

憎しみのメタルヒーローは…

デッドマンの胸に刻まれた「死」の文字が、ゆっくりと消えていく。

デッドマン、息絶える――

EXT. 街 ― タ

戦いの後。

街は、見る影もない。

負傷し、苦しむ人々。

破壊された建物。

混乱に乗じた略奪が、あちこちで起きている。

悲鳴が飛び交う。

「ピーポーマン！」

「誰か助けてくれ！」

「ピーポーマン！」

ピーポーマン 3、歩き出す。

倒れているピーポーマンとピーポーマン 2 のもとに向かう。

二人を見つめる。

そして――

ピーポーマン 3

…みんなを助けるには

ピーポーマン 3、二人に手を差し出す。

ピーポーマン 3

合体しかない

ピーポーマンとピーポーマン 2、抵抗しない。

ピーポーマン

好きにしてください…

一拍。

ピーポーマン

しかし、俺はヒーローになるつもりはないです

ピーポーマン、弱々しくそっぽを向く。

ピーポーマン 2

俺は…

一拍。

ピーポーマン 2

一つになっても、こいつを追い続ける…

ピーポーマン 2、ピーポーマンを睨みつける。

ピーポーマン 3

…いいだろう

ピーポーマン 3、二人の身体に手を置く。

三体の身体が、まばゆい光に包まれる。

三人の装甲が融合していく。

——やがて。

輝く銀色の装甲。

カラフルに明滅する発光部。

胸には「献察」の文字。

新たなメタルヒーローが、誕生する。



EXT. 街 — 数日後・昼

新ピーポーマンが、悪のメタルヒーローと戦っている。

新ピーポーマン、敵の攻撃を受け止める。

反撃。

敵を吹き飛ばす。

ナレーション (V.O.)

そのヒーローは――

新ピーポーマン、別の敵に立ち向かう。

ナレーション (V.O.)

正義感に満ちており――

新ピーポーマン、敵を倒す。

ナレーション (V.O.)

ときに気まぐれで――

助けを求める通行人。

しかし、新ピーポーマン、素通りする。

ナレーション (V.O.)

ときに自傷行為を繰り返す

新ピーポーマン、自分の身体を殴りつけている。

カメラが、ゆっくりと引いていく。

ナレーション (V.O.)

そんなヒーローが――

カメラ、街並みを捉える。

ナレーション (V.O.)

今日もどこかに現れる

タイトルが画面いっぱいに表示される。

『ピーポーマン―Z 級メタルヒーロー参上！―』

FADE OUT.

THE END